

トルコ支援へ連携

大地震 医療や防寒具の提供

総社市と国際医療ボランティアAMDA（岡山市）、登山家の野口健さんが代表を務めるNPO法人「ピーク・エイド」（山梨県）は9日、トルコ南部を震源とする大地震の被災者支援に連携して乗り出すと発表した。

AMD Aなどによると、被災地では建物の倒壊で多くの住民が屋外での避難生活を余儀なくされている。最低気温が氷点下になる寒さで、医療ケアや防寒資材などのニーズが高まるといふ。

AMD Aは11日にも医師と看護

計画では、AMD Aは11日にも医師と看護

総社市内で片岡聡一市長、AMD Aの難波妙理事、野口さんが会見。難波理事は「市民の思いを形にするため尽力する」、野口さんは「一日も早く寝袋を届けたい」と協力を呼びかけた。片岡市長は「地方から立ち上がるのが大切。長期戦になる」と話した。



トルコの被災地支援で連携することを発表した（左から）AMD Aの難波理事、片岡市長、野口さん

総社市はAMD A、ピーク・エイドと大規模災害時の支援協定を結んでいる。

（寺尾彰啓）